

雉子ト地震

著者	大森 房吉
雑誌名	震災豫防調査會報告
巻	94
ページ	9-12
発行年	1921-03-31
URL	http://hdl.handle.net/2261/17433

雉子ト地震

委員 理學博士 大森房吉

雉子ノ感震的能力ニ就キテハ本會報告第六十八號(甲)ニ記セル所アリ、又築地理學士ハ東洋學藝雜誌第二十七卷ニ雉子ノ鳴ク時刻ニ就キテ述ベラレタリ。其後大正二年末ヨリ大正五年末迄テ余ハ東京小石川區目白ナル關口臺町ニ住シ隣地ナル富豪渡邊氏庭園ニ棲居セル雉子ノ鳴キ聲ヲ聞クノ機會ヲ得タルヲ以テ、夜間雉子ノ鳴聲ヲ聞ケル毎ニ正確ニ時刻ヲ記ルシ置キテ地震トノ關係ヲ調査シタリ、而シテ往々深夜一時乃至三時迄モ机ニ倚リテ書見若クハ書類ノ調製ニ從事シ、周圍ガ極メテ靜穩ナリシ際ニ於テ極微ノ震動ニテモ感シ得ベキ狀況ニアリ、懷中「クロノメートル」ヲ常ニ机上ニ置キテ震動ヲ感ジ、若クハ雉子ノ鳴キ聲ヲ聞ケバ直チニ時刻ヲ記ルシ得ベカラシメタリ。隣家庭園ノ雉子ハ地震ノ都度ハ好ク鳴ケルモ、平常自然ニ鳴クコトハ甚ダ稀ナルノミナラズ、自働車荷車等ガ附近ノ道路ヲ通過シテ家屋ヲ振動スルコト稍強キコト屢ナリシモ斯カル際ニハ鳴クコト無カリキ。次ニ前記三年間ニ於ケル雉子ノ鳴聲ニ關スル觀察ヲ列記ス、但シ地震ノ際雉子ノ

所在地ト余トノ距離ハ數間乃至一町ナリキ。

(一)大正二年十二月三十一日、午前零時五十六分十五秒、家屋ガ極メテ輕微ニ「ミシ」ト音ヲナシ、其レニ續キテ雉子ケンケンニ聲鳴キタリ、五秒ノ後(即チ零時五十六分二十秒)ニ至リ微ナレドモ判明ナル震動ヲ一秒間感ジタリ。

(二)大正三年二月十二日、午前三時五十八分五十七秒、初期微動七八秒間繼續シ雉子鳴ク。

(三)大正三年二月二十五日、午後十時二十一分〇一秒、雉子ケン／＼三度鳴ク、間モ無ク微震ヲ感ゼリ、震動ハ二十五時間繼續セリ。

(四)大正三年三月五日、午後九時三十九分三十九秒、突然「ドーン」ト重キ物體ガ地上ニ落下セル如キ音響アリ同時ニ上下微動ヲ感ジタルガ、十七秒後ニ至リテ震動強クナレリ、更ニ四秒ヲ經テ雉子鳴キタリ、震動ハ九時四十分二十五秒迄繼續セリ。

(五)大正三年八月一日、午後八時五十九分五十八秒、始メ一回「トーン」ト輕キ足踏ノ如キ音響アリ、地震ナランカト考ヘ居レル内、五秒ヲ經テ短時間「トトーン」ト下ヨリ震動ヲ感ジタルガ同時ニ雉子ガ「ケンケン」ニ三度鳴キタリ。

(六)大正三年十一月二十四日、午後八時五十六分五十八秒、

始メ暫ク雉子ノ鳴キ聲ヲ聞キ其ノ後ニ微震ヲ感ズ。

(七)大正四年五月十九日午前五時四十分二十五秒、稍強キ震動ニシテ家屋ハ「ドーン、ガタ／＼」ト動キタリ、初發ヨリ十六秒後ニ至リテ雉子「ケン／＼」ト鳴キタリ、震動ノ繼續時間ハ三十五秒ナリ。

(八)大正四年五月二十五日午後九時四十一分十二秒、雉子「ケン／＼」ニ聲鳴キ、一秒ヲ經テ緩慢ナル微動ヲ感ジタリ。

(九)大正四年七月二日午後十時三十七分三十一秒、稍強キ緩慢ナル水平動地震ニシテ初メヨリ雉子鳴ク、初期微動ノ繼續時間ハ約十秒ニシテ總繼續時間ハ一分二十秒間ナリ。

(一〇)大正五年五月二十九日、午後十一時四十一分四十三秒、始メ極微ノ振動ヲ感ジ、約一秒ノ後チ雉子鳴キタリ、總繼續時間ハ五十五秒ナリ。

(一一)大正五年六月十日、午後十時三十五秒、僅カニ感覺ヲ與ヘタル微動アリ、同時ニ雉子ニ聲鳴キタリ、震動ハ十秒間繼續セリ。

(一二)大正五年八月十一日、午前一時一分五十六秒、始メ雉子鳴キ、五秒ノ後チ微ナル水平動ヲ感ジタリ、震動ハ三十四秒間繼續セリ。

(一三)大正五年八月二十一日、午後十時九分十秒、雉子鳴ク震

動ヲ感ゼズ、微動計ニモ記象ナシ」同日午後十一時廿一分八秒、始メ雉子鳴キ、六秒ヲ經テ微ナル水平動ヲ感ジタリ。
 (一四)大正五年八月二十一日、午後十一時三十四分十七秒、始メ「ゴト／＼」微ナル急上下動ヲ感ジ同時ニ雉子鳴キタリ、此ノ地震ノ初期微動ハ十二秒ニシテ、全繼續時間ハ一分十三秒ナリ。

(一五)大正五年八月二十四日、午後十時十二分四十二秒、雉子鳴キ、約十五秒間極微ノ震動ヲ感ジタリ。

(一六)大正五年八月二十六日、午後十時四十七分〇秒、雉子鳴ク、震動ヲ感ゼザリシモ微動計ハ微震ヲ記録シ居リタリ。

(一七)大正五年八月二十八日、午前零時四十二分五十五秒、始メ少コシク「ゴー」ト音アリ極微ニ障子ノ動搖アリ、風ガ吹クニテモ無カリシヲ怪シミタリシニ、三秒ヲ經テ雉子鳴キ、同時ニ震動ヲ感ジタリ、震動ハ三十五秒間繼續セリ。

(一八)大正五年八月二十八日、午前七時四十五分二十秒、始メ雉子鳴キ五秒ヲ經テ震動ヲ感ズ、更ニ十五秒ヲ經テ震動強クナレリ、地震ノ總繼續時間ハ一分二十秒ナリ。

(一九)大正五年九月一日、午後十時二十八分〇八秒、雉子鳴キタルモ震動ヲ感ゼザリキ。但シ同時微動計ハ極小ノ微震ヲ自記シ居リタリ。

(二〇)大正五年九月一日、午後十一時二十一分三十八秒、始メ雉子鳴キ八秒ヲ經テ震動ヲ感ジタリ、地震ハ三十二秒間繼續ス。午後十一時二十三分十一秒ニ至リ再ビ雉子鳴キタルモ、震動ヲ感ゼザリキ。

(二一)大正五年十月二日、午前一時十二分二十八秒、極微ノ震動ヲ感ジタリ、果シテ地震ナルヤ否ヤヲ疑ヒタル程ナリシガ雉子ハ鳴カザリキ、但シ微動計ハ同時ニ極微震ヲ記録シ居リタリ。

(二二)大正五年十月二十五日、午後九時二十四分二十七秒、雉子數回續キテ聲高ク鳴キタリシモ震動ヲ感ゼザリキ(當時本郷區千駄木町埋立地ノ二階家ニテ微震ヲ感ジタルモノアリ)。然ルニ微動計記録ヲ驗スルニ稍遠地ニ發セル地震アリ、初期微動ハ三十二秒間繼續セルモノナリキ、而シテ雉子ノ鳴ケル時刻ハ地震ノ初發ヨリ四十四秒ノ後、即チ主要部ノ始メヨリ十二秒後ニ當レリ。

(二三)大正五年十一月七日、午後六時三十三分〇四秒、雉子數回稍間ヲ置キテ鳴キタリシモ、震動ヲ感ゼザリキ、然ルニ微動計ヲ驗セルニ一ノ小地震ヲ自記シ居レリ。

以上二十三回ノ地震ニ就キテ地震ヲ感ゼル時刻ト雉子ガ鳴ケル時刻トノ遲速ヲ比較スレバ左ノ如シ。

(甲)地震動ノ感覺ト雉子鳴聲ト殆ンド同時刻ナリシ場合

五回(第一、二、九、一一、一四回地震)

(乙)地震ニ先キダチテ雉子ガ鳴ケル場合

七回(第三、六、八、一二、一三、一八、二〇回地震)

(丙)雉子鳴キタルモ地震ガ微小ナル爲メ感ズルコト能ハザリシ場合

四回(第一六、一九、二二、二三回地震)

(丁)雉子ノ鳴ケルコト地震ノ感覺ヨリモ遲カリシ場合

五回(第四、五、七、一〇、一七回地震)

(戊)地震アリシモ雉子鳴カザリシ場合

一回(第二一回)

(甲)雉子ガ地震感覺ト殆ンド同時ニ鳴ケルハ五回ニシテ全數ノ五分一ニ當リ又タ(乙)地震ニ先キダチテ雉子ガ鳴ケルハ七回ニシテ全數ノ三・四分一ニ當ル、其ノ時差ハ最大八秒ニシテ平均三・六秒トナル。(丙)ハ雉子鳴キタルモ地震ノ極微ナル爲メ余ガ感ズルコト能ハザリシモノニシテ五回ヲ算シ全數ノ五分一弱ニ當ル。(乙)(丙)合計ハ十一回ニ達シ、即チ全數二分一弱ノ場合ニハ雉子ノ方、靜坐セル余ヨリモ一層地震ヲ好ク鋭敏ニ感ジタルモノトス。

(丁)雉子ガ鳴ケルコト地震感覺ヨリモ遲カリシハ五回ニシテ

全數ノ五分一弱ニ當ル、其ノ時差ハ一秒乃至二十一秒ニシテ平均九・二秒トナル、更ニ(戊)ノ一回ニ於テハ雉子鳴カザリキ(此レハ雉子が不在ナリシヤモ知ル可ラズ)、(丁)(丙)ハ雉子ガ地震ニ對スル感覺鈍キ場合ヲ示ス。

要スルニ雉子が往々人ニ先ダチテ地震ヲ感ズルハ感覺ガ鋭敏ナルガ爲ニ地震ノ初期微動ヲ感ジテ驚キ鳴クモノナルモ、前記(丁)ノ如キハ雉子が鳴ケルコト余ノ地震感覺ヨリモ平均九秒餘ノ遅レヲ示シ、特ニ第二回地震ノ場合ニハ余ガ震動ヲ感ゼザルニ關セズ雉子ハ鳴キタリト雖モ、雉子ノ鳴ケル時刻ハ微動計ガ示セル地震初發ヨリ四十四秒ノ後ニ當リタリ。